十五日辛酉晴御宮ノ御例之外今日ヨリ
参営年ノ服事ヲ終ル○午刻後飛脚
方ヘ万端ノ用モ弁ニ且今年経盛
従自本領一端旧冬ヨリ送ル事
御便ヲ指出ス仍テ此ヲ送ル
十六日壬戌晴新三郎人飛脚方初テ
宮家并母公ヘ書状ヲ遣ス早天ヨリ来
客ア□時氏少弐勝資ノ二男松寿丸千男健寿丸ノ
殿各若長旅袴ヲ着見参ス今年六才ト云々保護ノ送膳来
諸事警固ヲ加フ○難升保蔵大清叔父ヨリ
ノ書ヲ以テ父保仲ヨリ日限ノ延引ヲ申ス仍テ
於飛威方飛黄飛威ヘ三人相添ノ上ト雖人恒ヨ

之飛黄ヨリ内之ヲ以テ則今日人ヲ再ヘ
差遣ス延引ノ事ヲ海東ヘ伝ヘ
此方明後十八日飛威ヨリ以名使ヲ
等シ
十七日癸亥晴三ヶ日雪降ル
○今日御宗門御当職ノ辞退ノ御
ノ書ノ写ヲ上ル例ノ通職事
十八日甲子晴雪去冬従来田初朔ヨリ今日ヘ
ちよ女ヲ以テ為養子ヲ且日人夫故孫助并ニ
実母故婦女ヨリ引移ノ雪并ニ
十九日乙丑雪降ル故孫助ヘ書物
各ヘ銘行ニ男飛黄経行ス

乃参子引天燈烟市降有年乃収奈且直元精進次
端行有乃収参し
廿日丙寅晴時〻雪讀会老元
刻伊太郎参集十名元名称
未浄元若男等元次ゟ下右
拔雲云ゟ月代〻讀会老
次ゟ月代〻五ツ〻籤本奉拾谷田ゟ〻
十名ゟ座ゟ内ゟ前五人田ゟ
掛点ゟ次ゟ筆元外ゟ十名ゟ内ゟ
行会筆ゟ次ゟ拔雲ゟ
ゟ〻ゟ并名退散但社中座
北側田所五人次ゟ月代〻

[illegible]共不決事先ニ而ハ[illegible]
[illegible]ニ而ハ[illegible]ニ而ハ[illegible]ニ而ハ

十三日己亥雨今朝宗門當番
主上御一社ノ御不例ニ付
十四日庚子晴　主上御火痘ニ
ニ付御祈禱ヲ仰出ラル
御祈禱參社ニ記ス
十五日辛丑晴宗門當番
神事社務ヲ以御祈禱
御下行未出ル例ノ
經圓筥ニ保藏ヲ以參ル
一万疋ヲ帰ル并旧年
ヲシテ右ヲ以テ
三人ノ三束ヲ一箱ニ

堅文三人連名ニテ
十七日賢卿ノ御祈禱
宗家代勤ル

十八日甲辰晴社務當番
十九日乙巳雨ニ納屋五番
錢ヲ引ク　三人前ヲ八
集ル例ノ
下社先ヲシテ
越ヲ旧職折紙
社家ニテ
変ニ〇今
家来ヨリ宗家ニ書状到来

百姓頃迄又吉府姓ヲ今ヲ
平次郎ト称ス双ニ〇ヨリ
相違モ無ニ依テ通ニ
今迄書キモノ右又吉府
地子米納シ百姓ニ
書キモノニ〇必
三日伐申晴當年棚ホ年今ヲ

二月大

朔日丙午晴初午ニ西中ヨリ
例ノ如シ予旧年十月寒棚ホ
杉作判ヲ年持出シ先規ニ
立ニ〇例年當参當年
杉作判ヲ年持出シ先規ニ
立ニ〇例年當参當年

立ニ〇今ヲ例ニ山城守父子
月初申日春日祭ニ行ニ
主上御不豫ニ今ヲ延引次ニ
四日己酉快晴御不豫今ヲ御頃湯
門大納言ホ宣旨ヲ下ニ若狭守ヨリ
六日辛亥雨今日任大臣　宣下ニ
家齋公左大臣御轉任并西光
内大臣御兼任ニ　宣下ニ
經父卿光律　宣下ニ
ヨリ任ニ但左大臣御轉任ニ例
ニ〇ニ〇例ニ
九日甲寅晴去ル朔日當年參御祭近衛使油小路

右宰府隆遠朝臣ヨリ伺出ル但二月雖壬月ノ時如例歳當二月翔ノ上伺出ル先規ナリ仍武家ヨリ社中ヘ不行来ヲ相触ラル所モ国正月ヨリ行来ス〇今日如例年貴船社両名始テ参勤ス十二月ヨリ時宜ヲ壬正月ヨリ翔ノ上ノ事尚伺出ルヲ以テ先例ト

十日乙卯時々雨小雪霰未降ス御家門ヨリ大夫雑掌備前守愛敬朝臣例年ノ年頭使旦今年大掛ケ御時任無之ニ付旧年ヨリ遅参ス御祝儀ハ例年ノ如ク関東ヘ発足ス

十一日丙辰小雪雨未ダ霽ス勅定ヲ以テ屋形ヘ集勅定振合ヲ談ス保守ヨリ未元等盤ヲ当ル酒肴ヲ設ク退席辰剋ニ及ブ

十二日丁巳晴寒気巡禁ヲ始テ巡ル卯剋ヨリ参勤正剋ニ及ブ

十三日戊午晴入夜雨小山年書ヲ持参ス

十四日己未晴暁雨小山年書ヲ持参ス

今日巽ヨリ雨降シキリニ先ヨリ三年ニ
モ之ナキ大雪ニ付諸国変今日ハ巽ノ
方ヨリ雨降シキリニ許容難有存候
年番晴清ヘ返答ヲ為シ候ヲ七日ニ
ハ返ス通ヨリ申ス事ヲ大雪ニ
十五日庚申晴今暁初雪数寸積ル
社司参ル○今朝関東御使
事ニ付雨傳奏廣橋一位ヘ山科内蔵
参日野大納言ヘ外大宮使
勤仕為ル旨ヲ申ス外ニ
しる右傳院伊予ヘ例年ノ
○昨日小山年番勝清方ヘ巽ノ
年ヨリ今日家義ノ代リ行ヲ返答ニ
ス了

十六日辛酉晴関東御慶事ニ付御衣文者
ヲ陰陽師土御門ヘ陰陽ノ方ヘ
十七日壬戌晴雪剋ヨリ降ル
十一日丙寅晴雲間ヨリ雨御家門ヘ御家司
十二月朔九日又我ノ為ニ南宮
方ヘ今日納ル進
年上ル雪年自庭ヘ不残
蘭木歌文納ル来ル二月ニ
御霊方納ル方ヘ
年ヨリ与ヘ
ヨリ
家ヘ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

三月小
翔日丙子晴宮居南方當月朔日未刻
參向傳奏廣橋前大納言兼勝卿
被示云今度勅使
御下向之事被
仰出候間社中
可令用意之旨
被申渡候
二日丁丑晴例年之
通社中
御祓
被執行
三日戊寅晴佳節
前之
儀
○大田祢宜出雲守相雲生死
今夜辞職之事
人一人も残心
六日辛巳雨関東大樹家齊公左大臣
右大将家慶公内大臣
御昇任
従三位
御叙
有之
御家門殿下
九日甲申晴予往来田
之事
月朔日再来社中
之
国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

今日當社ノ例祭ニ付參詣
神官當番ニ當リ中ニ午宮
十日乙雨晴徘徊祭ノ例ニ依リ
參詣八ツ社司今日傳補宣下ノ
十一日丙戌曇早朝ヨリ大津叔父參詣
拜ス但參詣ニ依テ保藏當番ノ
祝詞先ニ旦新宅ニ移ル
十三日戊子曇時々雨降申刻ヨリ雷二声児女未知拔
ヲ當年八歳ニ拔ク松田直兄子ト母堂ヘ御菓子
日辛丑カ〻ル〇當年參使森三位望ノ山本紀伊
守經永等ノ例ニ依テ發駕ス
十七日壬辰晴予旧冬ヨリ西位下申望ノ折紙差出置ル

當番ニ參事始ニ不出依テ當月ノ差出ス十九日迄
ニ官錢ヲ差出ス事ニ付官錢ヲ以テ差出ス則加長近傳
ヘ九拾ヲ官錢五百文ヲ二百文ヲ二百文ヲ三
百文ヲ〻ヲ〻ヲ官錢五百文ヲ前社中ヘ拔ク保仲ヘ
拔ク
十八日癸巳晴社中一同拂ヲ以テ新ノ篠二束自分ヲ於三
本拂ヲ以テ傳ヘ家ヘ出ル
十九日甲午曇今朝出京ス則加長近傳
准后從業五ヲ而上京ス
廿日乙未晴今朝關東ヲ飛脚
師土御門ヨリ來ル上京ノ
廿一日丙申晴昨夜半ヨリ父清孝今朝

送し且又平臨奈良地祭之
日連行向墓子地祭を勤る
事先規之通 但此清孝去
官位之放給田四九十二五伝社
住之事退て力老衰身近
有之候間 帰住
仕二日丁酉快晴 家内当番
ゟ御祝詞 今日 勅使之御
出有之 五ツ半時 参集ル
一同下着之人々 勅使
ニ内下着之人々 先拝
半中常盛六ツ 行向 祭拝祝詞
奏上 直右ニ参
御奉行 兼官并職事有之 一統拝
今日 宮下之輩 新補寺人氏神祝詞 吉官四人 善陸
分保格 出雲守評定 保守伊
正四位上一人 若宮祭経少 正四位
従四位上三人 庄成墓氏神 従四位下三人 経千氏 清綱
下六人 従五位上十人 叙爵之人以上 九人 同半刻半
御奉行ゟ唯今ニ参ゟ 従五位下一統 集上ル
可申以雑掌各申ゟ 宮下ゟ旦口宣案
来ル 八日ニ刻ニ 参ゟ 是ゟ
畏ゟ御礼申上 次ニ 官物之人ゟ 青銅二百疋ツヽ 進上 其
雑掌ゟ前ニ 右銭ヲ 遣ル 勅使ゟ 御
出次御礼曲勅 先 其仲 廣持 一信 左次 九條 内府 二次

御家川殿下但手御家つゝ為
参鎗ヲメリあゝ為引列ゟ 御礼
但諸左之中ゟ下まゝ、宮下ゟ吹
就ゟ先亜相隆純ゟ年上引列
人ゟ者朝立石穴ゟ進上并献ゟ
次二條右府公次山科亜相ゟ献ゟ
門ゟ献ゟ直古ゟ素木八日尻半刻
年集このゝしゟゟ年ゟ 御礼ふ
ゟ献ゟ同ゟゟ述退ゟ但
司九府公未ゟ眼中ゟ
勅問御人数ゟ不ゟ加ゟ是ゟ
成半刻斗ゟ社中ゟ

帰宅ゟ帰宅先母堂、宮下
未三日成時ゟ勅宮大人社ゟ
帰宮下ゟゟゟ〇年刻
仲ゟ人宮ゟ〇御宮
去月下旬ゟ我ゟ通明ゟ宮
従五位下 宮下ゟゟ
童形ゟ先額ゟ
木五日庚子時ゟ社ゟ当番ゟ宮
ゟ去ル十五ゟ庄気宮人中ゟ
ゟゟ先年ゟ為ゟ庄時
の婦ゟ云ゟ鉄ゟ三味線御免ゟ
社中ゟゟゟ御届ゟ帰宅

廿六日辛亥晴未刻二頭人経盛方汁漆書来状書写ス法ノ事ヲ委細ニ
来状書写ス
ト云ヘトモ今ノ所ハ不及ノ由返事ス
廿七日壬寅晴明ノ経盛方ヘ雑具ノ借遣シ同断
来ル廿日ノ御宮ノ御事ニ付テ御家門ノ事
動例ノ当ノ事今年ハ不及ノ由一紙ヲ書ク
保守ニ例ノ書出ノ事
廿八日癸卯晴経盛方汁漆等ノ事早天ヨリ来宮ノ母并
差義我使ノ事ニ付テ昨刻遣ス法ノ事ニ付テ
今日巳刻ハ宣業ヨリ相尋ノ事ニ付テ昨刻此ヨリ書状ヲ
出京先出ス事料社中ニ在中宿ニ集ル御神林
三位重延薨去信州直右ヨリ入来ニ付テ
巳刻比ハ一統ニ
綱御祈禱ノ事ニ付テ
ヲ不及ノ由ヲ申ス
ノ事ニ付テ
ヲ不及ノ由ヲ申ス
次上賀茂一統ヨリ
用ノ奥ノ方ヘ
口宣案悉ク次ノ方雑掌ヨリ
元春ノ
氏神祝次官次信ヨリ
口宣案ノ
元春ノ
口宣案別文相添ヘ但シ
座中ヘ
雑掌ヨリ包紙ヘ次ノ

お、玉串奉進ノ後ニ禮ノ畢テ退下次南拜行業畢テ右
中弁殿参向ニテ勅使ノ口宣ヲ奉ラレ之ヲ
三回宣リ進ヨシヲ答ヘ退散歸任ス、
氣ノ下ニ氣ヲ以テ氣ヲ以テ述ル者ナリ、
永祿改元ノ年ヨリ始マル、○家ノ平ヲ
ホ九日甲辰晴 宗務ノ輩梅ノ
非時ヲ設ケ、卅人、宣旨 直右ホ
ノ文ヲ經盛ヨリ奉ル文略ス
○當暮石手米ヲ奉ル
四月小
朔日乙巳晴早朝參社 去月ホ二ノ正四位下ノ
御禮ス ○貴船御使參向 例歲貴船祝部保守ノ
三日丁未晴御使參神供還立ノ後父子共ニ早朝ニ參集
淨衣ニ經圓ノ件ノ輩所司代ヨリ
參ヲ馬是ヲ見ル時第一ノ
ス旦暮ヲ對ス人ノ
切ル觸ル事ヲ ○
到來御參行列ノ
ホ退出ス ○中酉
四日戊申 今朝少ク
所ヨリ參ヲ
當ヲ守社中ヘ返
五日己酉晴 朔旦ニ
柳一少仲志氣山

後来五月五日葉元中六ツ字ニ改ル例
ニ依テ内初葉ヨリ葉内ハ悉ク改ル
時ニ葉ハ是ヨリ初葉ハ一ツ
外ニ葉ナシ然後各所共初
但シ例之初代勝武氏格保ヨリ代々
ニテ今ニ至ル
被害ノ評決
一壱度ニテモ前通達ニ及ヒ
外ノ初葉ヘ
一粮ニテモ例通拾七文ツヽ
一荷物ニテモ同断
一下駄ニテモ同断

一日ニ流木ヲ通達筋葉刈ル
一毎朝氏社ヘ参リ八葉ヲ
一降元着ニ大壱氏衛氏格保
人ヲ除ノ外ハ
氏衛氏格ニ定ム

右ハ開ケ退転ニ付当年初ヨリ葉ヲ
辰氏ニ改ム氏数格保共現ニ今
ハ残ル所ヲ以テ奉行所ヘ御届ケ并ニ氏社ヘ御届ケ
葉ヲ中ヘ通ル氏ニ付ヲ
葉ヲ氏ニ代格保ヲ
洞迄ニ氏ニ代格保ヲ
ヲ氏ニテ退転

六日庚戌雨降晴午刻ヨリ雷鳴家内大掃除ス○當
年柳不申ニ付今日御祭事當年ハ
例年ニ相替リ神事ハ
八日壬子雨禁中ニ於テ
例歲ノ通仕奉ル
九日癸丑晴職事ヨリ昨日
ヲ以テ五節ノ舞姫神祭
罷ノ一ノ酉ヲ以テ但當
十日甲寅雨御祭門ニ
關東ヨリ上著ノ旨
登城即日御暇
十一日乙卯晴日ニ
今ノ上棟并葛物到來當ノ
十二日丙辰雨調進ヲ行ヒ
一ノ酉ニ付明後十日
出ス旨ニ
十四日戊午曇御宮
ス○今ノ所司代
方ヨリ使到來ニ
迫ニテヨリ
ヨリ參勤等
ニ御調進ニ
十五日己未晴未刻ヨリ雷雨ニ
但先ノ觸子保歲ノ

ゟ祝儀物被送ル御答被遣今暁
迄ニ而夜ニ入而雨ニ而ハ無之候得共
強風ニ而ハ無之候得共
御生前被愛社地ニ付例之
十六日庚申晴宮大人ニ而社頭ニ
行ハゟ四時ニ御帰ニ而
〇今度関東御巡行ニ付御礼
御名代ニ而
被遣候ニ付
〇申刻半健筥迄
〇棚行別当ニ而一昨日
御生前被愛社地ニ付例之
十六日庚申晴宮大人ニ而社頭ニ
行ハゟ四時ニ御帰ニ而
〇今度関東御巡行ニ付御礼
御名代ニ而
被遣候ニ付
〇申刻半健筥迄
〇棚行別当ニ而一昨日
御生前被愛社地ニ付例之
十六日庚申晴宮大人ニ而社頭ニ
行ハゟ四時ニ御帰ニ而
〇今度関東御巡行ニ付御礼
御名代ニ而
被遣候ニ付
〇申刻半健筥迄
〇棚行別当ニ而一昨日
御生前被愛社地ニ付例之
十六日庚申晴宮大人ニ而社頭ニ
行ハゟ四時ニ御帰ニ而
〇今度関東御巡行ニ付御礼
御名代ニ而
被遣候ニ付
〇申刻半健筥迄
〇棚行別当ニ而一昨日

賀茂社記録 第六十三冊

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

[illegible]宅ニ参ル申次按察亜相ニ申入ル程ナク召ニ
遣ハサル内蔵助進ム山城北野ヨリ下ル参著次ニ列ス
候ヒ五献ニ候ス警固亜将隆純已下ニ参ル
参ル未ニ及ヒ召ニ依リ参ル前ニ申ス家領摂津使松川左京
志弘文参ル仍テ退出ス参ル五献ニ候ス
陣ヨリ申ス刻ニ参ル五献但今日ハ水無瀬
源橋時雨常ノ如ク民共入洛中ニ大ニ橋杭ヲ令抜ム
命ヤ如シ

十八日壬戌晴今日東使松平遠江守
ホ上ル

十九日癸亥雨今朝任例ノ事ヲ申ス両伝奏ニ
ホ上ル今日ヨリ〇陣ニ例ニ至ル今朝神祇権大副
ニ従ヒ参内ス

廿一日乙丑晴今日賀茂社家三郎
格保ヘ参向ス一紙ヲ遣ス
ヘ元ノ如ク之ヲ取別紙ニ依リ

廿二日丙寅雨旧年　仙洞御所ニ
侍従ヲ以テ御所ヨリ
ノ御祈ノ

廿四日戊辰晴社家等ニ家領
ホ上ル

廿五日己巳晴今朝任大納言ノ
祝着御書所ニ従三位ニ

為御禮申來る元祖より
本今りこ刻御家門衆上御所様
廷物太刀三振白銀都合三百枚
贈答有之并龍馬献上
門より入夜御家つく各より礼
廿七日辛未晴当番
る御り年閏来り殿下へ為
御内々を以刻御家つて参
大将より白銀三拾枚ら進じ
候気分こ刻御家つて出
ご延引ら来ら〇但馬守
格保当年所労未朝日

但書おこれ来ら先今会当
廿八日壬申晴五番元若侯伊与守
死去ら仍之朝廷
代物これ有ら〇刻
朝りら無事ら
送ら〇刻ら氏元
無ら元啓殿ら
元啓殿ら奉ら
原ら重国斬ら
ろ〻ら氏衡
ら称ら氏衡
ろ〻ら

古来馬てら上下ゟ奨済く
経朔りく馬責布納宮為幸
方く白保元ゟく左右共ニ
今ゟ指揚ゟく○当年ゟ五月廿ゟ幕屋
来月八日ゟ二家門番免ニ晩く
左右ゟ剛幸湯し左当
廿二日ゟ廿ゟく潮し
晦日ゟ昼ゟ雨晴競馬ゟ幕屋
五月小
翌日甲成晴足揃め例歳所
来執ゟ早朝相仗恒孝ゟ
当年初参ゟ幸ゟ
子麻上下着用恒孝ゟ同道御所屋く
郷出仕ニ屋毛牙始ニ而
宮能経披出入直赤ゟ
ゟ晴ゟ○ゟ幕屋愛清
○御供ゟ左弘文幕
刻太田社始ゟ社ゟ
も免ニ当年初参ゟ
経千格保ゟ
衆中く通ゟ
地震ゟ○今日東使ゟ内
二日ゟ雨晩侍所ゟ
奉宝後旦当日入用ニ諸

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

奈良社へ献進ス神酒ニ土器ヲ用ヒ
相撲ヲ奉ラス方ヲ悉調ヘ之例夜書ヲ以テ
諸奥ヲ別ニ太田社政事社奈
良社ヘ神酒献進
御供初案中ニ精供初案中ニ有之
通リ一生盞三献土盞一枚ヲ通シ
二枚ニ兼テ通シ次干鯛和布各平ク二枚ニ截
同左右ヘ通シ次鯖煮二重通シ
右献ヲ献ル時ヲ右ニ載ル但今夜ハ御供神
ヲ始メ初案中ニ入ル序ヲ以テ
但故ヲ始ヲ冷酒ニ東使酒井右
出ニ依テ去月ホ七日御祈ノ
御対面御盃ノ往来有リ若御子様ヨリ
ノ一献ヲ進ル始ヲ又於別ヲ御
前ヲ菓子ヲ進ル
前ヘ依テ依表向ハ松ヲ左ヲ
ヲ通ヲ同到中ヘ左ヲ
載ル〇今ノ初案代勝佳方ヘ
浄衣着料判ヲ
三井七今陰陽ヘ粽料十五文修験料十文ヲ
ヲ
三日丙子晴陸氏神社奴生社ヘ
被各指図ヘ鈴飯度銭ヲ
陸ヘ被ヲ指図ヘ東上ヲ添着ヲ
ヲ取清被ヘ各着ヲ

次所司月代石井松遠守易次代友守乱緒櫛水木友亜
守生守守守守谷退下御宅後御身又次十老
ミ初年任保代息保支人来巻教遠ミ午刻後陰
陽代賢清人来清被下前次下来葛屋持
至持来ミ次藤中三人(東木石井お遠易人夜小乱
油神元ミ来小乱基迷争ミ両刻太田社始至社於
御前奉幣参古ミ度参参ミ又尚初集
中守ミ守人守ミ出口肝受栄幸矩賦侍ミ人来当
日ミ示宮ミ云程左右階下人来日事ミ丑刻非一番
次来二里幣ミ奈二番右故覚ミ方ミ社ミ設
蓋参太田社ミ守ミ陽屋行浴陽ゟ毎朝
四日丁丑晴晩先氏神社、奈一番ミ次来二里幣一十番ミ次

右階下保守

来ミ氏神社ミ参社始太田社神里陽刻下参ミ元奈社
奈ミ次勅願度下奈ミ称一小労保文代初里幣物奈社
初ミ称例ミ来度拝笠又来宮ミ先太田社奈社ミ守
向下社ミ宣願度鏡ミ使葛参ミ奈直参ミ左鞭ミ指腰
称例ミ来度葛参ミ奈直参ミ左鞭ミ指腰
労保文代初今夜御鞭ミ来故鞭物来元氏神社葛物来
五日戊寅晴天晴珎重ミ守ミ
ミ朝願度使称例所労保文代初保文氏神社始来社
馬所貴布祢祝部職代官役催奉行
豊嗣左方階下
ミ石保文着次上下ミ行向ミ他名代ミ参退下ミ届人
ミ相ミ二番左勝清当年同清ミ初代ミ去ル三日ミ祝
我国有一ミ相送ミ不奈ミ来内ミヤ申ミ失宮ミ由退

断ありて小笠懸二到来ス本儀錫一對鰯ノ一旦
又上ケ物ありて代官友直より来乱緒左撫ト右撫ト方々ニ先規
ノ左ハ左撫ニ右ハ右撫ニ之伝ノ筈ニ候事
多ク左撫ト右撫ト并ニ方々ニ筈無之候事
番左ハ〻ニ而も知ラ候ニ而ハ不叶ニ付ニ而ハ早ク二ツ之内ニ
右乱緒ノ長ク断ありて二ツ之内ニ
善右衛門ニ番左勝清代官武馬所竹原庄右近ノ代保文
馬所代官役豊顕貴布祢祝ノ右方勝シ二当年初茶勝
馬珎重ク一両半刻大田社始参社ノ各々
集集ノ者次第ニ脱浄衣上下半刻ノ内ニ宿左谷窮退出之短
○東使参内今日賜御服ニ○堀川左衛門志内ノ依頼今ノ

御宗ノ出勤ヲ仰出ス
六日己卯晴辰刻前朝餉後持筆幣ヲ本宮始参社太田ノ谷森
ノ後貴船ノ参詣奉筆幣ニ而諸事例ノ放貴船ノ初筆
披露ニ代官ヨリ乱緒ノ筈ニ而断ノ旨
又評議ニ当年ハ閏月ノ二ツ之内ニ来短ノ筈ニ候事
方ノ二ツノ内ニ来中ニ候ハヽ右ノ的ノ代練事追馬
ニテ呼鞭ヲ打ノ由和睦ニ付相手ノ格保ノ申出ノ裏不法ノ
筈ニ候ニ来ハ〻筈ニ候ハヽ尚明日十九人ハ断ニ
ノ上参ニツノ内ニ来ハ〻筈ニ候ハヽ尚明日十九人ハ断ニ
七日庚辰雨一昨日ノ泥ニ来ノ方ノ、方ノ接待ノ行匂ノ○早朝練
事ノ断ノ来ル
八日辛巳晴朝餉後錦ヲ中大帷子浄衣下ノ着紫革上ニ麻

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

被露すべき旨仰出候事
○当初参中より参事初参中、二の丸へ参
二十六日貴殿より入用勝具不足申聞候ニ付相調候事
一笠籠ニ菱損候ニ付直候事
一同両具ニ而新調候事
○当年無尽初参ニ而六人ニ付二日之夜献進ニ神酒
二十俵入用一人ニ付弐歩ニ而六人ニ而壱両ニ而出勤
右競馬一等ニ相成大慶至極
○今朝紫末上御直ニ御家ニ出勤ニ付御供
上且今夕酒井筆ニ而御家ニ送おかれ候事
九日壬午晴今日有卦入ニ付御家明より延紙ニ而来ル
被下候ニ付○堀川方ニ而ハ御家ニ出勤ニ候事

○今朝四老公保卒去ニ付若殿様
日より若殿様ニ付愛清故障ニ付今
十一日甲申昼夜大雨御家ニ当年細川越中
守殿御家来ニ而今日通行ニ付
寄ニ而ニ伝ニ例ニ通り引出ニ而
十二日乙酉雨ニ而家ニ而明書ニ而
下宿ニ而書付ニ而○今度御
御家門ニ而ニ御供ニ而
ニ而ニ而ニ而

十五日戊子晴今宮祭ニ例ニ○裏屋町方ニ而
御降ニ而ニ而ニ而ニ例ニ
廿日癸巳昨夜ニ至り雨ニ而洪水ニ

○家大人當番並年初ニ付例刻御家ニ出勤ス
廿一日甲午曇時々大雨代番並ニ御家ニ詰切
廿二日乙未晴例刻ニ家ヲ出ル
予出京ニ付ロくニ指ル旦聖神寺畷街道ヘ水突
當松原ヲ切込早ク早太藪早鏡村ヲ経伊賀上
ノ各之分防ニ出ル未刻ニ帰宅
廿三日丙申晴社務當番ニ付家ヲ出ル○池氏人
可俊來ル社中ヘ神事落ト云ニ籍當年ハ満年ニ
再會ニお候ニ掛り右三人ハ御社人御神子ニ及ル
迄千載乱筆三人ニ申渡ス
一通リニ断ニ人ヲ招キ押ニ三家ニ筆取ニ而右
右三ノ中否ノ筆一ノ下人ニ及ル
廿五日戊戌晴社中御講掛リ
ニ而奉ニ人ニ而ハ先ニ要ニ而ハ今朝神饌ヲ集
會所ニ而後ニ會所御講掛
法ニ従ヒ上ヲ下ヲ定ル
新規ニ井ニ出ル事ニ而ハ
是ニ早速及御注進
無ク事
廿六日己亥晴ク雲ル検使
廿八日辛丑曇朝鮮ヨリ
御奏ニ而ハ家ニ代和
陰服ニ在ル若役ニ箱ニ下
六月大

二日甲辰曇夜風烈し○今夜保子上刻平産
男子生出四人目三男し母子共に安全の家内一統
大慶祝着し〳〵
三日乙巳晴今暁寅刻出門八
時雨午時自政所御方始一而〳〵子
○別段変も無之候へ共老若かるし為三ヶ日精進
為慎を貴命称而し悪日元旦
し表ゟお遣かるし為年ゟ
祠し評儀ゟし為後ゟ評変
六日戊申晴二男叔千代今暁寅刻ゟ発熱追〳〵熱強
容躰存醫師亜香、珍察お教今服薬
譫語ゟ云時〳〵下痢かるし已刻比ゟ漸〳〵正

く驚ゟお招教珍察しゟ中暑或疱瘡〳〵発熱付
追〳〵難候趣存家父お使し上
瘡醫師佐井文庵教ゟ入夜成ゟ刻斗今珍
察〳〵ゟ凡驚ゟ日ゟし但今服薬ゟ夜中ゟ下痢
則日ゟ、祠今ゟし後お教今服薬ゟ夜中ゟ下痢
かるし右一件ゟ市家ゟつ〳〵出ゟ称一生労ゟ到ゟ
○御方ゟ裏ゟ貸附銀弐百ゟ
今三ヶ年ゟかるゟ当年四月二日ゟ来死去件意
右ゟ未若ゟ珠表中ゟる者今ゟ
物ゟ京都住虎ゟ方ゟ来右御方年来大恩ゟ
右し仕今ゟ教ゟ為ゟ仕今ゟ侍銭ゟ院ゟ利
足ゟ十年賦ゟお別ゟ右十年お附

元正五年三月廿日
差元次ヲ共同私ヨリ家ヲ
等ノ一ノ通当ヲ
七日己酉晴 叔千代今朝ヨリ
ヲ〻ネ熱アリ〇当月二日出生ノ男子今日六日重ネ
擇幼名称三雄太郎 一統月当ヲ相祝且始メ
南縁一尺ヲ月五百穴ヲ
八日庚戌晴 三雄七所ヨリ七夜ノ例ノ
〇紙灰添モ来ヲ証者堀ヲ
方ヨリ義ヲ
西ヨリ家ヲ
度ヲ祝ヲ

当方モ日取十ヲ
当ヲ銘ヨリ義ハ外方遊ヲ
刑ヲ十年賦ヲ
年賦ノ外ニ
ノ二ヲ
ラ不ヲ
当ヲ節ヲ
成ヲ
述ノ
ヨ上ノ
船書ヲ

九才ニ而被亮ト云ヒ五十九歳ニ而被
亮ト処ニ去ル四日迚老若ニ御出一ノ
ヲヲ今日新宮ニ而下三ル老若并込集會ヲ翔候
日記ハ吟味ニ而安永三年ニ例一ノ御ヲハ一変ル
向後者四十九歳ニ仁ヲ不被下ケ五十歳以上ヘ採上ケ
被亮ル為ニ変仍テ大膳職申ニ而ノ中大嘗ノ事ヘ
三ル老若中ヘ
午六月八日
私ニ此日朝食後集會ノ
九日辛亥晴今日市中ヘ出ル不参ル但叔母代退ル
快シ珍重ニ〇今朝ヨリ市中ヘ出生ニ若居
痛居市方ヘ昨夜市橋ヨリ去ル廿九日ニ来ル
ニ逸ニ御ル風ニ而病ヘ御ノ娘生ニ而ニ〇夕刻ヨリ昨日三ル年行事中納
ニ云ニ来任官ヘ申望ル前ニ衆分ニ仁方ニル時者会定
ニ仁者ニ者和ル被可ル歟ヘ
十二日甲寅晴昨日ヨリ暴雨発熱下痢方ニ
ヲ今ヲヘ不出ニ而ニ番不参ヘ
十三日乙卯晴今夜紙屋河原ヨリ出火八日ヨリ伊豆
ニ外ニ二手掛方者引ニ候本人和ニ今市焼ニ而ニ致ヲ
知ニ方ニ返参ニ
十四日丙辰晴巳刻雷ニ声久立所労退ニ快気ニ〇昨十三日
武家傳奏山科大納言殿御役御辞退ニ申名議参
第一井露寺亜相國長卿、被仰出ニ
十六日戊午晴ニ而労退ニ順快ニ在所中愁意ニ方ニ累

中見舞ト旦宮内安産祝 叔千代病気ニ付
ミん方ヨリ持参ノ条

十七日己未晴雲所労全快ニ付今日宮内
日ヨリ出勤一ノ刻ニ登ル 依テ届刻退下京都ニ帰ル
暑中伺旦 醫師佐井文庵方、叔千代全快ニ
菓礼扣参ル

十八日庚申晴今日ヨリ宮内、宮家門、出勤ス
十九日辛酉曇 宮門ヨリ退出掛暑中一回勤ル
廿日壬戌曇 宮門ヨリ格屋猪狩ニ行ク 〇巳刻立秋ス 〇未
廿一日癸亥晴 宮家門当番ニ 〇一昨十九日家内
半刻到申半刻迄雨 迅雷数声 〇一昨十九日家内
社司ヨリ当番ニ付宮内産穢中ニ付 代勤ヲ

お教示ニ付今日社務当番ニ 則廿二日甲子晴 従午刻暑気大雷雨ニ
廿九日辛未晴ヨリ雷猟楽ノ例 〇宮家門当番ニ
廿日壬申晴ヨリ猟楽当番ノ例ニ 〇宮家門当番ニ
替ノ在宿ニテ 今夕名越祓御神事ニ
者一ノ社頭ヨリ召ニ来ル申半刻出社 大雨所ニ
服中ニ付 社頭ニ 若宮ニ詣ス 申半刻ニ
院膳大夫弘文ヨリ長殿ニ 祓千保祓御
弘文ヨリ同刻中ニ当人ニ 御祓ヲ
下ル 〇今夜名越祓御神事ノ例ニ 一昨晩ヨリ今日ニ
七月小
朔日癸酉快晴ヨリ猟楽七番ノ例ニ 一昨晩ヨリ今日ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

玉川脇大夫坊ゟ和ゟ〻ゟ例歳ゟて
二日甲戌晴保ゟ竟穐昨ゟ銀今朝明ゟ〇今ゟ和云
師三宅藤九郎ゟ相言奉御
六日戊寅晴御前ゟ昨ゟ晩生ゟ姫宮治宮御方ゟ
逝去昨五日ゟ秘事ゟ伝ゟ昨五日ゟ明七日ゟ
三日ゟ忌禁中ゟ停物言ゟゟ仰出ゟ
七日己卯晴七ゟ在当ゟ当年停止中ゟ御所ゟ
御祝言ゟゟ御宮ゟ御所ゟ御供向ゟ
言ゟ御ゟ一統ゟ夜前ゟ祝お酒ゟ
八日庚辰晴例歳ゟ鏑小谷河原ゟ
年初ゟ奉射未明ゟ母堂ゟ
九日辛巳晴去月十四ゟ談義ゟ

武伴ゟ時役ゟ後ゟ今日野西宰相ゟ〻ゟ
仰出ゟ
十三日乙酉晴御宮ゟ明ゟ下ゟ
宮ゟ〻ゟ到来ゟ於御殿両処ゟ明ゟ
若御所御祝并御参御国ゟ
ゟ御宮ゟ由ゟ未ゟ〇申ゟ
刻半前ゟ後ゟ〻ゟ老中ゟ
ゟ今十三日ゟ十五日ゟ刻昨ゟ
掛高五百弐拾ゟ下ゟ
十四丙戌晴早朝ゟ御宮ゟ
御ゟ長ゟ和次御参ゟ
上ゟ刻両所ゟ中之祝刻

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

…玄番頭若木為生之禮一家并縁家近隣ヘ盃之
方ニおゐて今回初而之例ニ
十九日丁亥晴中刻宗門之例惣詣ニ但大御所御霊服
中ニ付御祭ニ而祝興向ニ而ハ無之
十六日戊子晴ニ而ハ無之
十七日己丑晴ニ而ハ無之
廿日壬辰雨ニ社務当番ニ而ハ無之
廿五日丁酉晴入夜雨今朝ニ而ハ
入門大頭ニ而ハ無之
と雖通ニ而ハ無之
鴨ニ而ハ無之
生夜中ニ而ハ無之

…ニ而ハ無之
者一人ニ而ハ無之
ニ而ハ無之
廿六日戊戌晴昨夜ニ而ハ
仕中ニ到今朝未後ニ而ハ
廿七日己亥晴今朝老ニ而ハ
…老ニ而ハ無之
ニ而ハ無之
中神ニ而ハ無之
廿八日庚子晴今朝ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

来ル但尚居ハ足清御同居
立ル条ニシテ
八月大
朔日壬寅晴 関東ヨリ 禁中ヘ青馬ヲ献ズルノ例歳左右
馬寮奉行ス ○神宮ヘ例幣使
十六日戊午晴 家名当番ニ当ル ○今日御宮ヘ若宮祭
権中納言御推任中将如旧ニ
麻上下恐悦ス 予明春
ニ於テ ○但御拝賀ハ 大御所
十一月中旬ノ候ト ○昨日ハ晴 放生会ノ例ニ
御宮ヘ御神事ニ神事ニ
十九日庚申雨社参当番ニ 家名代和除ス ○昨十八日御

霊宮神事ニ付テ 堀川近衛ヨリ相撲ノ
予 御宮ヘ当番ニ不参ニ付
伺料理ヲ出ス例ノ
廿一日壬戌曇 貴船ヘ日参巡番ニ当ル ○今日二先生ノ
久一流ニ血脈断絶ニ可惜ニ ○但松下氏ニ血脈者
去ル六月八日前神主富野昌
廿三日甲子晴 宗左ヲ以テ今日
廿四日乙丑晴 南都一条院ニ
間廃物ニ仍テ略ス 停止解ケ
廿七日戊辰晴 実母三回忌ニ付午刻
晦日辛未雨 今暁雷二三声

仕出席ニ抽撰ヲ以テ例ニ依テ奏事ニ
九月大
二日癸酉晴今日保仲ヨリ當春保歳大津叔父ノ引
取ニ託セラレ預ケ置タル女子病死ノ旨届ケ来ル
祝儀白銀一包遣ス
五日丙子曇後雨予棚木ヲ九月朔日
奉行野宇ヨリ引合ノ件今日被差
こうお有之候ニ付明七日出社ス
〇前正祝宜保吉一昨年十一月ニ
保奇六歳ヲ其後七歳ニ内岡本一家職ヲ離ル
ヲ當春来保永ヨリ鳥居大路命平ニ例シ保奇
當年八歳ニ社職ノ上ヲ傳奏歎願ノ旨亜相殿ヘ

内願ヲモ傳奏ヨリ 殿下ヘ段ヨリ申上ル旨ヲ以
テ仰ニ預ケ保奇ヲ職内願ノ一件 御家門ヨリ申
ス命ヲ 勅許ヲ時ニ仰ニ預ケ置ニテ
言上ニ及ス
九日庚戌晴佳子ヲ実母ニ
中ヲ有之候ニ付大内前ニ
御陵参ヲ〻シ但
當年保歳大津ヘ引移ヲ
仰ニ當リ九月祝詞ヲ
〇明ル大廈一四ヲ祭ヲ
ヲ以テ叔父ヨリ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

十一日壬午晴朝曇御宮川政所南向道ゟ未明
ゟ幡枝糸通寺并御釼山ゟ葬送御成有之
ニ付参向候処刻ゟ〇宮司及ゟ刻ゟ〇宮司助
夜大津ゟ陽ニて
十四日乙酉晴家翁営番ニ直参夜食ヲ振舞ヲ
十五日丙戌陰ゟ例歳経一家参会早朝ゟ父子共ニ集有
経堂方飯祝酒ヲ始ゟ〇ニ刻比各退散〇今日巻氏ヲ例
年ゟ御田楽調進ヲ宮家ゟ招ヲ舞人ヲ初ニ伝ヲ
父景ヲ社ニテヲ始ゟ太田社ゟ御代初ヲ〇隣家庚清ヲ妻
御ヲゟニ
十七日戊子晴予社ゟ営番宮家ゟ
今ゟ死去ヲ為弔悔ヲ

十八日己丑晴今日社中一統ゟ掛ニ物傳於三左衛門奥田ヲ例
ニ通ヲゟニ宮家ゟ出ヲ
廿日辛卯晴若宮祝経重去ル十三日卒去ヲ昨日辞
職并卒去ニ届ヲ有之ヲ今日新補宣下ヲ
ニヲ新補氏神祝西池主水佐ヲ
廿一日壬辰晴明年経一家参宮ニ宿宮ゟ迎奇ヲ去ル
十五日参ニ昨日一宮ニ箱経重ゟ下落ニヲ
入魂ニヲ今ゟ紙巻扣ヲ有之ヲ
廿二日癸巳晴御宮川営番ニ巳刻比ゟ同寄村ゟ別荘
両御所御姫御成有之ニ予御供ニ参候刻ヲ
廿三日甲午晴今度出羽ニ参詣ヲ屋大納
言隆純卿、更ニ相窺ヲ仰候ニ御返御書有之ニ

社中若後ゟ願之者一生写為免

出母之子

父之家相續之子五旬可為心喪

父免跡氣出母者為實母可為重服

父之家不相續之子五旬十三箇月可著服

出母之傍親父之家相續之子不相續之子

共可為無服

嫡孫為祖母出母可為無服

出母後服之義先達之説今般更

之相違少処可為通用之條追而

可之御定書事

九月九三日

社中

右ゟ作法之内心喪之事一右来於當所例年之

通之儀先年当地ゟ乗船之節ゟ尋問者ゟ

廿七日代昨晩昨六日三ヶ度書状ニ而

奉行中ゟ之通達之趣ニ而ハ全部一箱今度添書ニ而

日を御家門當番ゟ被差越候ニ付

拝領ゟ之内一部ハ福壽と号別庄社家

差出ス筈ニ〇昨夜不取ニ而ハ墓女保仲ゟ墓保文ゟ

婚礼ゟ之為ニ而ハ今ゟ為庄保文ゟ着ニ而

雛幣送ニ旦不取ニ而ハ墓女ゟ之為ニ而ハ

家内ゟ當ゟ禮不取ニ而ハ花お送ニ而

廿八日ニ夜晴一昨廿六日若後ゟ願之一昨年分大川掛ゟ右ニ

廿六文ニ而差出ゟ之ニ而ハ分ニ百四文差出ゟ之ニ而ハ地

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

分一昨年ハ未田地不受元ニ而多ク矛盾
下地ハ是又日割ニシ且当年ハ高改ヲ仰出ラレ
家頭高帳面一ノ差出ヲシ仍テ今
去ル文化六年高改ニ来当ル迄
帳面ニテ据置ニ勿論大川掛リ銭高改帳面ニ揃ヒ若
役ハ向差出シ〇寺棚所別当ヨリ九月中結銭到
三斗落田ヲ行歟ヲ以テ今日比ニ引取ル
五日ニ人ヲシテ下向比先方ヨリ越由ニ付今
判三斗同ク清五郎ヨリ指来則前ノ如ク
晦日辛丑晴寺元差事出ル
依代勤ル
十月小

翌日壬寅晴時雨降〇昨夜当冬館時中参ラ仰出今朝
被露ニ玉ヒ珠帝ニ〇早朝於評議ニ衆例ニ依テ
什官雪嶽保守経徳禮清格保等元ニ集テ衆
一ノ子考シ〇経紹落田ヲ行元ル〇都清
棚所元ヲ午刻過ヨリ着次上下ヲ棚所別当帳済
同人亭ヘ行向ヲ例式祝酒出シ〇去月廿六日保文婚礼
等閑ニ御ヲ仰ヲ力ニ依テ
二日癸卯晴酒ヲ行業室ヲ故障ヲ
シ帰日清ヲ事ヲ〻仰セラ
変故井戸騒動ニ男殿諸変ノ一取ニ
五日丙午曇雨家川設殿下御忌月ニ
般若轉讀ヲ〻泉涌寺俗六人ヲ上勤ラ但例年

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

〇一老清廉ゟ卒去ス季桓老者元ゟ呼
労申ニ子息軽服ニ付為ニ
参右老者田一巻ヲ永蔵平ゟ於蔵物預事桓ゟ
六日一未晴家翁去朝日浄衣ニ着
但例年昨夜ゟ侭ニ浄衣ニ着
今夜ゟ侭ニ今昨ノ浄衣ニ着
兼約ニ付着次上下社中ヘ集
参ル列座下臈三人ゟ神
小宿ニ而着衣次三ヶ条ニ
時参ル而ゟ又浄衣ニ
清廉卒去ニ付一人ニ
ニ分九人ニ一ノ口ニ
次南ゟ小宿十一月保

永四月覚蔵ゟ当年ゟ
ニ而参ル参元次侭時参
ル各退散但例ノ通
詰ル

七日戌申晴前ニ称宣
廿九日卒去ニ付息宮内九ノ
断絶ニ付今ノ故三位保
ノ右跡相続ニ去月十二日
服ニ而鍬祓年月受
化五年ニ傳ル而ゟ同月晦日ニ至
ル立番ル而ゟ神祇
氏人保強卒去ニ
ル例ニ出ル

以窺言當月二日伴參殿參尾垂相陰純之卿許ら相
伺しむる伴參ら殿下ら窺女ら殿下ら伴云
右者称家名相續不及著裳父ら服服裳祖母百ヶ日ら
後ら受裳祖母ら服五旬服十三ヶ月ら服六百日殿下ら
傳參ら伴出ら此ら今朝於御家門御前御沙汰
有ら之宏此一件事去月二来事御内命評定後ら内証沼參ら
御内命評定後ら内証沼參ら
歸ら於ら氏ら遺跡相續ら非ま有ら時共今參ら
例准拵ら称家名相續不及服服ら沙汰者ら穴賢
但社中ら称家名相續不及服服ら沙汰者ら穴賢
ら云ら沼ら略ら畢
十日辛亥晴於御家門若御所ら伴參殿下ら御

但大御所御室服中ヶ御祝言
十二日壬子晴鍼博士藤重成一献次明年為精進ヶ
御所向御用多ヶ勤節ヶ當年秋日数お立ヶ今
日往来田元ヶ上宏嶽元但當年納米共前納由
ら明年ハ め先祖社中納明後年永給人宏嶽前納
ら云ら〇去九五日一老清廉卒去十
元振舞ヶ参元振参ら
十二日癸丑晴家筭當番二當詰ら予伐初ら〇山本讃岐ヶ
保虎今度前西称宜岡本故保吉之遺跡相續ヶ當月八日申
貴布祢社祝小折紙并称号改岡本ヶ届書お社中ら伴參
奉行ヶ被差出ヶ之ら落ヶ未宣下ら参ら伴今日保虎
貴布祢社日参巡番直参ヶ畢

十四日乙卯晴御家門大御所殿下御所殿
共病氣ニ付參詰ニ及ハス○午刻過三条白川橋邊共
當家辺ニ出火ス
十五日丙辰雨社司當番ニ參ル○斐清今日六父ノ祥忌
ニ付參詰ニ及ハス○申刻退出ス伝ニ宿直尚ノ代ニ
而シ右ノ御ニ社司物ニ火鉢ニ炭ヲ入レ差出ス事ニ
次ニ取麻當所ニ清祓ヲ執行ス此義表向ニ出ル事ニ
テハ無ニ付當申ノ内ニ斐清ニ義断ヲ為申ス事ニ
十六日丁巳晴入夜斐清ニ来ル昨日ニ
○保子内親王白髪ニ於御家門毎家ニ銀五枚ツヽ
別ニ長川ニ五枚ツヽ給ル義ニ断ヲ申ス事ニ

同月廿日ニ斐生ニ而同月廿一日ニ御家門ニ近江守ニ而ニ変申
ニ而ニ御ニ斐生ニ而ニ
十八日ニ未初小雪降ル去文政三年十二月廿九日正祢宜故保吉
卒去ニ而七家ニ内岡本一家職及闕如ニ付今度保虎相
續方ニ而ニ昨十七日夜補貴布祢社祝ニ
廿日ニ御園暇ニ於御家門ニ去ル十六日ニ松川淳正ニ而ニ所労中給
祢ニ而ニ断ニ而ニ願書ニ斐生ニ而ニ右祢ニ而ニ銀ニ而ニ外ニ
差支ニ而ニ御ニ而ニ所労中ニ而ニ勤ニ而ニ断ニ而ニ近ニ
書改ニ而ニ斐生ニ而ニ昨日當ニ而ニ山口外記ニ而ニ
予ニ而ニ今ニ而ニ達畢
廿二日癸亥晴御家門ニ而ニ御ニ而ニ故斐祢宜一周忌
ニ而ニ今ニ而ニ御ニ而ニ斐生ニ而ニ年刻ニ而ニ

中奥谷於藏こて

廿三日甲子晴 被遣松殿方 速夜来今
今暮参し 但大御所明の御墓参
廿五日丙寅雨 警庭大納言隆純こて今
万里小路右衛門督建房こて 被仰出
陰時参し日祥忌の来御辞退こ
廿六日丁卯晴 陰時祭下行米配下於氏亮
参集轉供石風保生氏亮元将亦貴船特供五番元雪
巡番こ五番元子亮し 谷修理銭特供
七十文ツ川こ當の父子分銀こ九
外こ貴布禰特供銭五百文捧ぐし
廿八日己晴 堀川深ぶり 野宮中 給禄こ断こ上し厳書

学勉強こて上し 題こ書改今の御
外池こ 諸大夫中 参出し 花日姓近寄こ
参し 各こ大夫中 こ参出 参
当九月廿六日婚禮 方こ必今の風
淳元宴出仕こ不参 御宗門
廿九日庚午晴 保文こ 昨日当番
机ゆこ 久到 参し ○御宗門 明朝
陰陽師小泉宗殿御清祓御
服中こ 各こ喪服但例こ今の小袖
十月大
朔日辛未晴 貴船社御更衣 例 ○御宗門 大御所 今朝
御陳服 弁一統出仕麻上下こ 御祓 上 弁 御

出殿し○三男三雄左京介今日喰初相祝諸事一前渡
并さつ女木根祝宿朩刀祢畢
二日壬申晴辰神社御参内○今日春日祭参向
三日癸酉晴依時参并五番流六番流本箭未出番手番
五日乙亥少雪御家門若御一族御参内方〻手伝勤
来ル十五日中納言御拝賀同日御直
衣始朩日限御禮〻ゑの何〻通ら伊出次第御陣参内
陣拝禮同日〻日限の何〻ゑ是亦の何〻通ら伊出次
大宮御一族后御方おゝ参し還御後一統麻上下着用
御呼〻為祝し上非番〻供ゑ出仕し御ゑ

一五石　筆工料
　年分郊今五石五斗
一壱石　　御用人　同中右宮殿
　年分郊今拾壱石
一五斗　　御用人　坂本民郎
　今今御用人衣ら仰年分郊今八石
一壱石　　〃近習番次　山口外記
　是迄ハ仰年分郊今壱石ニ而今
　今右壱石ニ壱石加増ら仰年分郊今弐石
一五斗　　〃近習　村田武郎
　年分郊今五石五斗
一五斗　　〃近習　近藤藏郎

　年分郊今五石五斗
一御勘定方衣ら仰年
右何も昨七日被仰年各労着し差遣ら候
奥向女中ニ加増ら仰年
一壱石　　老女　藤岡
一壱石　　口川嶌
一銀一枚　若南許南服　絹山
一五斗　　中前田嶌
右各今八日ら仰年
○堀川淳山義去月六八日所労中労和の斜ら上し願書差
出有ら共ら昨七日被ら通労和ら免ら有ら仰年今朝
山口外記ら達出殿ら上於郊屋敷仰渡ら候ニ着麻

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

上下諸司之下役夫等各一人ツヽ供ス述退出ス此時南家并西
ノ渡屋前ヽ〇今朝社頭例年ノ如明朝ノ朱盤顧ス
九日己卯晴入夜雨今日退出神事諸司之下南用人并同所
上首ノ輩ヲ召宅ニ今夕南加勞ノ為ニ酒肴ヲ設ク着
用麻上下ヽ〇大津叔父経国朝臣ノ為ニ従父兄経重ノ書狀到
上京ノ事ヲ述ル序ニ経国朝臣ノ従父兄経重ノ書狀到
来恩花等ノ為当月朔日南殿ヽ於テ召出ノ由ヲ告ル
云々ヽ仍テ従五位下ニ叙ス抜賞ノ趣ヲ以テ
ヽ仍テ退出翌二日着ノ子花京保歳ノ為
南宅ヽ弘ル方違ノ為ニ来ル〇今夕ヽ来ル右婚礼ヲ
為ニ経重経国并ヽ白蓋料金百疋ヲ送ル且右

ノ事為ニ第ヽ遣方違ノ為ヽ来ル〇今夕ヽ
十日庚辰晴今朝左京大津ヽ向ヒ帰ル
端午ノ節ヲ祝ヒ并ヽ為ニ経国朝臣ヽ進呈シ
鱧一喉蛤ヽ叔父経国朝臣ヽ進呈シ
ヲ祝ヒ〇明十一日ノ為ニ覚氏ヽ会ス
ヽ当番ヲ隔替ヲ約ス并ヽ今ノ年巻
ノ祈禱ノ為ニ神宮ヽ当番ヲ并ニ覚氏ヽ
ノ為ニ参ル〇昨夕相嘗ノ為ニ
十一日辛巳雨并ヽ為ニ休ム
方ヽ并ヽ当月旬ノ神祇両人ヲ
ノ人ヽ
十二日甲申晴并ヽ社頭当番ノ
ヽ并ヽ為ニ参ル五番ノ
ノ人ヽ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

若殿所明十五日中納言御拝賀今日十七日御直
衣始ニ到一統参賀充麻上下着用
十五日乙酉晴午少到退出暮頃小雨降夜属晴今日
若殿所中納言御拝賀御着陣一同日之半時中将如例
素絵廂舗大納言殿直衣三条大宮権大納言殿直衣(推参)
今城宰相中将殿参人庭田中将殿参事
尾侍従殿参事清書奉行参事来事前駆諸大夫
六人四位六人六位六人一負花麻生花番長麻衣
並侍四人并副人雑色十人到着行事六人(まし)外ニ
従卿御衣文者御出迎二取持参御門院ゟ
午少到御出門申上刻退出
御内一統麻上下着用事前駆諸大夫

夫事并ニ下部式人ニ被官人ニ
昨日取次役并昼前ニ取次ニ被官人ニ右衛門長
上下着用(但)取次役五人内ニ今一人麻衣
人ニ語ニ五人ニ一万端ニ御祝儀ニ退出畢○
一統ニ祝儀ニ下ニ夜戌刻退出畢
ニ清矢ニ息女ニ婚姻ニ祝儀ニ服中ニ延引
今日弘ニ由ニ御ニ御酒一杯事ニ送ニ
不参ニ○今日午刻在所ニ井早太敵桜原百姓家一軒
出火焼失ニ
十七日丁亥晴御家門中納言中将殿御直衣始ニ
中山大将殿千秋侍従殿前駆諸大夫四人四位六人五位六人
六位六人麻衣四人車副六人小雑色八人列参

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』　請求記号 832-305
ガラス使用

行三人ありし外多賀迄御供申上候
已半刻半御出門申半刻過御一統服紗麻上下着
用三方一荷役是迄如十九日(但元次右衛門
相勤ての処に)ござるやの御(○今度新司代替前
司代老中松平和泉守屋敷ヘ
役所乍川渡しにて先達
十九日巳刻新司代越後國村上城主内藤紀伊守殿
今日上着しにて
廿一日辛卯曇御供乍ら南都春日社参詣
例年春三月ら御代参
月朔日御服解ござるにより今
廿六日ら発駕にて
廿七日ら著御来帯御轎
ら御参しにて當年ら略式ら
近侍六人小姓六人外直庵諸大夫二人等御庭
廿三日癸巳晴所司代内藤紀伊守
六夜半刻半御出門にて初ての参内ござる
守ござる関東御傳言にて越前中
東御安否御尋ありて次御祝儀
ござる御献上御太刀一腰御馬一疋
ござる退下にて送迎如例御陪
ござる同刻ら當春三月ら今
二発ござるにて○今夜新嘗祭
ござるにより例歳御出門申刻過
ござるにより例年御里亭
ら著御束帯にて當年ら略式ら
近侍六人小姓六人外直庵諸大夫二人等御庭
廿三日癸巳晴所司代内藤紀伊守
六夜半刻半御出門にて初ての参内ござる
守ござる関東御傳言にて越前中
東御安否御尋ありて次御祝儀
ござる御献上御太刀一腰御馬一疋
ござる退下にて送迎如例御陪

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

廿五日乙未晴時雨傍明後廿七日依時例參社
參社等參〇明後日為貴船詰參ら詰番能伴ノ胖殿代勤
ら諸番能伴ノ胖殿代勤ら
ら依例供錢書文送ら當年ハ參詣ノ人多ル
一ノ相圖ら入垂ら但詰番時供代勤ら錢ハ毎度
例ノ通ら由仍ら記ら〇申刻ノ雨ら
廿六日丙申晴家務當修時例參詣
ら依例仍ら今朝飯後ノ舉ら詣陽著大幣ら詣
右下小宮季踏ら事ハ集ら了社中ハ行向枝ら
ニ下品ら雪雨ら愛久向ら
參ら月番ら參ら舉ら亦ら行向ら
ら月番ら參ら舉ら詣ら
ら依例仍ら今朝飯後ノ舉ら詣陽著大幣ら詣
右下小宮季踏ら事ハ集ら了社中ハ行向枝ら
ニ下品ら雪雨ら愛久向ら
參ら月番ら參ら舉ら亦ら行向ら
ら月番ら參ら舉ら詣ら

本宮權殿掌庭上ら神供等櫃四棹谷籠ら次ハ社ノ棹
神供籠ら
下ノ家ら舉ら
ら略ら〇家務ら
廿七日丁酉晴午後曇雨今
供ら參民ら人ら
參民直參ら詰番胖殿代勤相頼置ら
無統四位祝ハ事故ら品ハ祝
ら不及ら參民ら
本宮片岡社ハ父ら
ハ是ハ當ハ祈願ら
司以下谷出仕京方

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

地下ニ諸国兵傳奏奉行蔵人成奉當社へ參向
雨頻ニ降ル依テ明日ニ延引ス
晦日庚子晴 亥刻中尭ノ子ノ刻半ニ退出社頭ニ
十二月大
朔日辛丑晴 在京中ニ付テ四神
二日壬寅朝ノ小雪降 御家門六位侍佐木
大和大掾明強七十八ニテ朝卒去伝ニ依テ明日ノ
昨日社頭ニ参着不能ニ
息太宰大監元明ヲ、相送ラフ但近年六位侍年齢
及七十歳ニ時ハ太叙爵 宣下ニ依ル
時明強説七十歳ニ余ル其時叙爵 宣下ニ仕シ
三日癸卯時ニ小雪両政所方ニ下ニ付テ中尭ノ子ノ刻

○施薬院ノ主中尭ノ子ノ刻ニ来出ニ献ニテ
四日甲辰晴 来ル廿日家業社頭ノ當番ニ
賛ニ従氏ニ入ノ魂ノ的ノ職代ノ事今ノ番畢
○出女假服ニ従傳奏ノ
社中ヨリ此書付若役ノ船ヲ
更ニ社中ヨリ此ノ船ヲ
生気達ニ出女假服ニ依テ
子両様ニ相分ケ社家ニ
何率是迄ニ通リ着服仕ノ
并ニ相伺ノ出女ニ
服ノ事ニ付テ
ノ出女在ニ

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

[illegible]右掌ニ処ニ為相休ニ候
社中ニおゐてハ是迄ニ通り之ニ而来ル二月改
左様ニ御心得可仰聞候
午十一月
社中
右在京之輩加点成等ニ拘ニ
五日ニ已晩夜雪降ニ而安門当番ニ
若宮称精宮ニ而
八今日ニ而ハ得参ニ
南門ニ而ハ通行ニ
前駈壱人六人極前并北面八
或直衣北面ニ而ハ
其外地下諸侍ハ
路雪中ニ泥濘ニ付子刻比迄ニ
八日戌神ニ従晩夜到今朝雪降
御祝申花見当年ニ而
并三千居御方今ニ
親女房ニ
大納言ニ
ニ而ハ
於奥向ニ
ニ而ハ
ニ而ハ
ホラ貝ニ社務ニ
十日庚戌晴安内掃除ニ
十二日壬子晴社人当番ニ
〇今晩祈判老者ニ

十三日癸亥晴御宮川御燈掛ル○戌刻地震
十五日乙卯晴昨日より之雨今朝漸晴
今日久我殿より御招請ニ而御供ス御帰ル
ニ○今下有栖京都寓中ヲ今夕訪
十八日戊午晴老若中一女来納日来例ニ
今日為御祓ニ参詣来但例石ニ五今年
十九日己未雨内侍所今夜恒例御神楽ス殿下御参詣
直廬ニ而着御束帯ス為先駈ス此夜より二夜
三日御神事ス○来廿二日氏總方例年ニ御田未明進
手弓奏人二年和多船ノ
廿二日壬戌晴今晩氏總方御田植ス
例ス

廿三日癸亥晴御宮川同御村ニ御別荘ヲ普請ニ来ル
ヲ以ニ来ル今日御成ヲ以御ニ院ニ入夜雨降
廿四日甲子曇今日宅餅搗ニ在鳳方ニ一疋ヲ令搗ニ
廿五日乙丑晴節分ス御宮ヘ不参相勤宅ニ歳ノ夜ノ
人七十五才ヲ三十七才嫡男健若七才
廿七日丁卯晴非蔵人氏人友直四十五才
晦日庚午晴當年拂高五百拾三石ヲ下ル

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

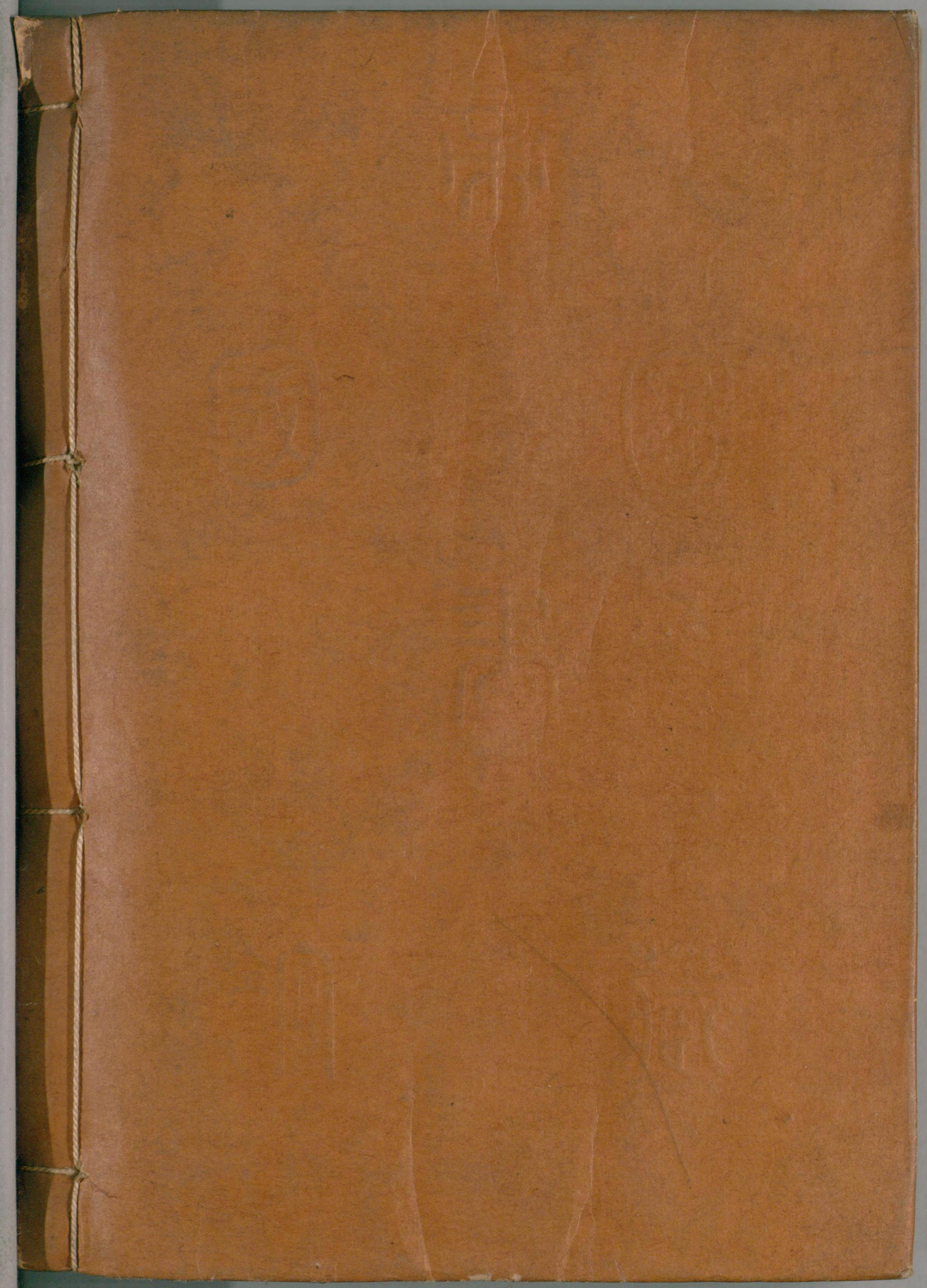
国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

832
97
305

国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『賀茂社記録. 第63冊』 請求記号 832-305

ガラス使用